
LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾 LC レポート vol.06

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは8月8日(土)、2020年度第5回ワークショップ「グローバル・コミュニケーション」を開催いたしました。

ミネソタ州立大学で成人教育学博士号(Ph.D)を取得し、「教育学」を超える「学習学」の提唱者である本間正人さんを講師に迎え、最新の「学習法」と「コミュニケーション」について学びました。毎年「一番印象に残ったベスト講義(ワークショップ)」なのがグローバル・コミュニケーションです。今回も、大いに盛り上がり、楽しく濃密に(オンラインで)学ぶことができました。

日時：2020年8月8日(土) 10:00~16:00 (zoomを使ったオンライン講義)

講師：本間正人さん(京都芸術大学教授・副学長 成人教育学 Ph.D.)

テーマ：「グローバル・コミュニケーション」

【このコンテンツの目的】 =====

- ・「グローバル」とは何か、基本から考え身につける
- ・「学ぶ」とは何か、基本から考え、行動に移す
- ・「傾聴」のスキルを身につける
- ・「右脳」をくすぐる：共感を生む、心を動かす
- ・「英語はニガテ」を克服する

=====

70冊以上の著書を持ち、「楽しくて、即、役に立つ」参加型研修の講師としてアクティブ・ラーニングを25年以上実践してきた本間さん。「最終学歴」ではなく「最新学習歴」の更新が人生を豊かにすると説き、最新の「学び方」についてご教示いただきました。

現代はさまざまなツールを利用した学習が可能であり、テキストを読んだり、講師の話を聴講したりするといった既存の「勉強」ではなく、自分にあった学習法を積極的に見つけていくことが重要とのことでした。例えば、視覚情報が頭に定着しやすい人であれば、映像学習が有効です。既存のものでいえば、テレビやビデオ教材がありますが、現在はYouTubeな

どのネット動画のコンテンツが充実してきており、こうしたものを積極的に活用していくべきとのこと。ノートのとり方もただ文字情報を記入してだけでなく、マインドマップなど、よりビジュアルに訴えるものに工夫すると良いのです。

人によって得意な学習スタイルは異なり、4つの分類を紹介しました。

- ・ Visual Learner (視覚を使って学ぶのが得意)
- ・ Auditory Learner (聴覚を使って学ぶのが得意)
- ・ Kinesthetic Learner (手・身体を使って学ぶのが得意)
- ・ Verbal Learner (文字・言葉を使って学ぶのが得意)

その人にとってのベストな学習法は事後的にしかわからないため、各自がさまざまな学習法を試し、自分に最も適した方法を探ることが、結果として学びを効率的にするのです。

本間さんはNHK教育テレビ「実践ビジネス英会話」「三か月トピック英会話：SNSで磨く英語アウトプット表現術」の講師などを歴任してきた英語学習のプロでもあります。英語の学習法についてのセクションの冒頭で、受講生に英語が得意か苦手か聞いたところ、まさかの全員が英語が苦手と回答（謙遜もあるでしょうが）。日本人の英語苦手意識の深刻さが浮き彫りになった瞬間でした。結論から言えば、英語の習得には2000時間英語に接触することが必要です。中学、高校での英語学習時間を計算すると約700時間。しかもそのうちには英語に触れるというより、文法について日本語で解説する時間も多く含まれており、単純に学習時間、接触時間が少なすぎるのです。残りの1300時間をどのように確保していくのか計算していけば、英語習得に必要な1日の学習時間とペースがわかります。

本間さんはYouTubeで英語の動画を見せながら、言葉の正確な意味はわからずとも、感情やニュアンスは伝わることを体感させ、文字情報より映像と音声にまずは触れることが大切だと説きました。我々がこれまで受けてきた、テキストを見ながらの「This is a pen…」式の学習は順番が間違っているのです。

英語の日常会話に必要な単語数は1500語。日本人は義務教育で習っているはずの数です。より専門的に英語を使う場合はさらなる英単語の学習が必要ですが、多くの人には必要ありません。難しい英単語の数を増やしていくよりも既に知っている英単語を「わかる」状態から「使える」状態にするほうが大事なのです。

そのためのワークを2つ行いました。英単語での「2文字目しりとり」と「イメージ連想」です。

2文字目しりとりは Apple→Power→Orange といったように2文字目のアルファベットの単語をつなげていきます。

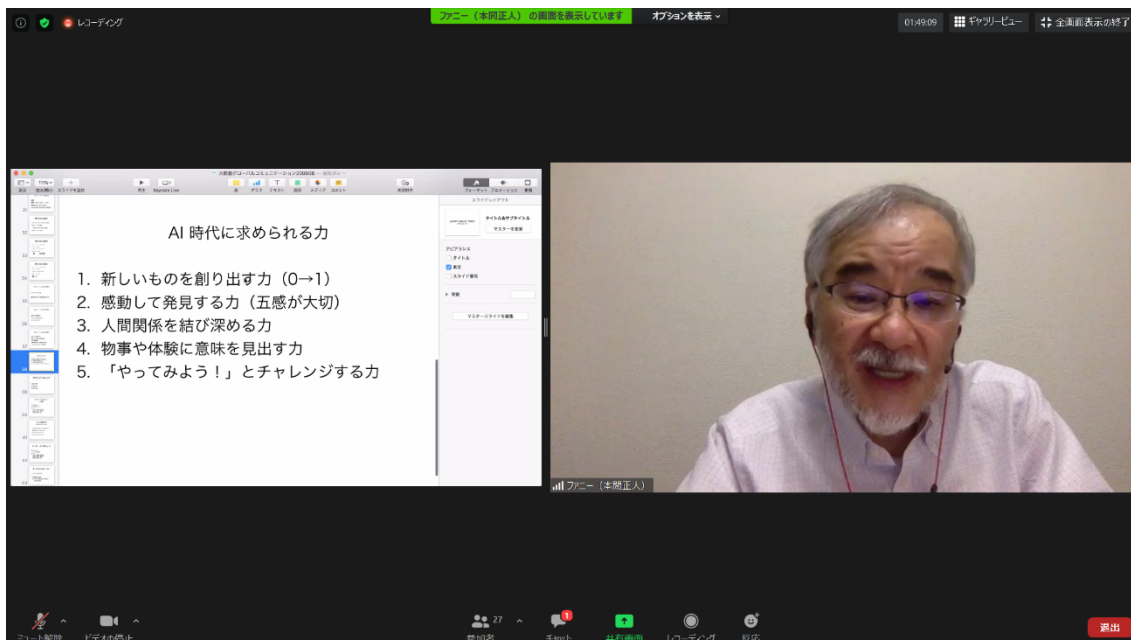
イメージ連想は「マジカルバナナ」のようなもの。バナナと言えばゴリラ、ゴリラと言えばジャングル、ジャングルと言えば…。これを英語で行います。Apple→Red→Blood→Hospital といった具合です。

英語そのものを学ぶためには「e-learning」でかなりのことができます。スマホ1台あれば、いつでもどこでも学べ、自分の現時点での実力とニーズに合わせて「学び直す」ことが可能。ここでも「最新学習歴」の更新が重要なのです。

その他にも「傾聴」をはじめとしたコミュニケーションを円滑にするための方法や教育者の役割の変化（Teaching から Coaching へ）について、「アイデンティティポートフォリオ」の作成、「未来のヒーローインタビュー」など、さまざまなワーク、学習を行い、密度の濃い時間を過ごしました。6時間という長時間だったにも関わらず、長さを感じさせない講義でした。

ワークショップ「グローバル・コミュニケーション」

講師：本間正人さん（京都芸術大学教授・副学長 成人教育学 Ph.D.）

A screenshot of a Zoom meeting. On the left, a presentation slide titled "AI時代に求められる力" (Strengths Required in the AI Era) is displayed. The slide lists five points: 1. 新しいものを創り出す力 (0→1) (Ability to create new things), 2. 感動して発見する力 (五感が大切) (Ability to discover through emotion, senses are important), 3. 人間関係を結び深める力 (Ability to connect and deepen relationships), 4. 物事や体験に興味を見出す力 (Ability to find interest in things and experiences), 5. 「やってみよう!」とチャレンジする力 (Ability to challenge with "Let's try it!"). On the right, a video feed shows a man with glasses and a white beard, identified as 本間正人 (Masahito Honma), speaking. The Zoom interface includes a top bar with a timer at 01:49:09 and a bottom bar with icons for mute, video, chat, and other controls.

- ・最終学歴ではなく「最新学習歴」を常に更新し続けていくことが人生を豊かにする。
- ・Q.グローバルな色と聞いて何色をイメージする？→A.いろいろ。グローバル＝多様性。

- ・正解を用意している教育が日本から活力を奪っている。
- ・これからの教育は Teaching (教え込む) から Coaching (引き出す) へ。自発性、可能性、学ぶ意欲、潜在力を引き出す。
- ・コミュニケーションに対する欲求：女性は「共感」、男性は「有能性の証明」。
- ・アクティブリスニングの3ステップ：1, あいづち 2, うなずき 3, くりかえし
- ・AI時代に求められる力：1, 新しいものを創り出す力 2, 感動して発見する力 3, 人間関係を結び深める力 4, 物事や体験に意味を見出す力 5, チャレンジする力

・ワーク1「ヒーローインタビュー」

インタビュアーは傾聴と質問 (5W1H)

ヒーローはやりがい、充実感、成功体験を具体的に細かく、映像的に気持ちよく話す。

- ・単なる情報伝達は人間関係を構築しない。
- ・人間関係の構築は「心と心の通い合う」Heart to Heart のコミュニケーション。
- ・Position to Position のコミュニケーションはぎくしゃくする。
- ・マスメディアはバッドニュースを流す役割。
- ・組織を明るく活性化するためには、グッドニュースを循環させなければいけない。
どうする？→ヒーローインタビューと他己紹介のあわせ技。

・ワーク2「アイデンティティ・ポートフォリオ」

「私は○○だ」を20個リストアップ。その中から直感で重要なものを5つ選び、円グラフにする。

- ・「100%私は正しい」「100%あいつが悪い」という一面的レッテル貼りが対立のもと。二者の共通点が協力関係の礎。相違点は多様性。マネジャーの役割はこれらの相乗効果を出すこと。
- ・SDGs=Learning Planet (地球上すべての人が一生学び続けること)
- ・完璧じゃないといけないという思い込みを捨てる。「Try and Learn」Try しないことこそ失敗。
- ・自分がマジョリティに属していることに気づいたら、マイノリティに配慮する視点を持つ。
- ・「わかる」と「できる」は違う。「できる」ようになるにはある程度の時間と努力が必要。

・ワーク3「英単語2文字目しりとり」

単語の2文字目でしりとりのようにつなげていく。例：Apple→Power→Railway…

- ・Passive Vocabulary (読めば意味がわかる) から Active Vocabulary (会話の中で使える) へ。

・ワーク4「イメージ連想」

前の単語から連想される英単語をつなげていく。例：Apple→Red→Blood…

・ワーク5「理想の未来を描くヒーローインタビュー」

すべてが理想的に展開した未来に意識を飛ばし、現在形、過去形で話す。それは何年の何月何日かまで決める。

・壁にぶつかったら、その壁よりさらに大きな山の頂上に登った自分をイメージする。壁だけを見つめていると、お先真っ暗だが、山の頂上から見ると、壁は小さな点にすぎない。

・Backcasting=理想の未来から逆算して今の行動を決定する。

【受講生のレポートより】

英語が苦手になった要因も、勉強しても上達しない要因もよくわかった。量が足りない。身につけるための2,000時間を作らなければならない。この、できるようになる/身につけるのに必要な2,000時間という内容は仕事にも通じるところがあり、一日7~8時間業務でちょうど一年間となり、異動や担当変更となった若手へ、お互いに定性だけでなく定量的にも目安となる内容で、使っていきたいと思った。最終学歴よりも最終学習歴が大切ということも同様に、自分自身だけではなく周囲にも広げていきたい。

=====

早速今週のzoom上でのチームミーティングで「英語2文字目しりとり」をアイスブレイクでやってみました、16名いましたが、皆良い笑顔になり楽しめました！

(英語という単語で強張った顔が、終了後に笑顔になっていたのが印象的でした)

=====

本講義では、会社のみならず、『家庭におけるリーダー』として、また『会社人としてでなく、一人の人間として人生を豊かにするため』に必要なモノ・コトを、多く教えて頂いた。「コミュニケーションに対する欲求(女性は「共感」、男性は「有能性の証明」)や、「アクティブリスニングの3ステップ」は、まさに”良好な夫婦関係“を構築していく上で不可欠なもの。これは、深く心に刺さった。一方で「Teaching(教え込む)ではなくCoaching(引き出す)」や「ヒーローインタビュー」、「英語の勉強法(まずは映像と音声を結び付け、その後文字に繋げる)」といった考え方・方法は、直ぐにでも子育てに活かしていきたいポイント。

=====

最も印象に残った言葉は「グローバルコミュニケーションとは心の広さ」という言葉です。自分の立場でない人の立場への想像、自分が気づいていない立場への想像、つまりマイノリティへの配慮が心の広さであり、互いに異なる背景の人間同士での意志疎通の前提となるという点を改めて再認識しました。自分自身がマジョリティ側の立場に属することが多く、マイノリティ側への視点が希薄だったためであり、今回の講義を通じて、認識してこなかった身近なところにおける多様性への学び、気づきがありました。

=====

「ヒーローインタビュー」のワークにおいて、傾聴し質問させて頂くことで、さらに皆さんのことをよく知ることができ、新たな共通点を発見することもできました。また、「理想の未来を描くヒーローインタビュー」のワークでは、自分自身がまだまだ理想の未来に確りとした具体性を持たせられていないと痛感しました。そこが固まらなければ、そこに至るまでのプロセスも決まっていなと思いますから、確り考えていきたいと思ひます。

=====

プライベートで付き合い人も徐々に固定化され、長年会社にいて”当たり前”のことが増えているからこそ”枠にハマった考え”になってしまっている部分があるのだろうと、今回の講義で気づかされた。「そんな考えがあったのか！」と、おどろく経験ができるよう「最新学習歴」を更新するとともに、私には無い価値観を持っている人との交流を積極的にしていきたいと思ひます。

=====

アイデンティティチェックも、学びが多かった事項の一つです。モットー的に大事にしていることと、自分の専門・属性として大事にしていることの双方が可視化されたように思ひます。個人的に興味深かったのは、国際人、日本人、北海道人という選択肢があった中で、最もじっくりくと感じた属性が北海道人であったことです。意外とローカルなところにこだわりがある自分が浮き彫りになり、新たな発見でした。

=====

世の中の報道がバッドニュース中心である一方、グッドニュースだけしか流さない情報番組がなぜないのかとふと不思議に思ひました（あったとしても、報道番組というよりは娯楽番組のアプローチと思ひますが）。ハンス・ロスリングさんも『FACTFULNESS』という本の中で、「航空機、無事着陸」「農作物の収穫、また成功」といったことはニュースにならず、人々は世の中が悪くなっているというバイアスがかかると述べていますが、「人の批判なし、ポジティブニュースのみ」という番組があれば、それなりに面白いのではと思ひました。単純な娯楽番組であれば、市場の需要もそれなりにあるように思ひますが、やはり、企画会議が通らないの

でしょうか。

=====
講義を聴きながら、本間さんはちょっとした話し方や小話など相手の興味を引く話し方を実践されているのかなと思います、何かしら興味を引く働きかけは相手に合わせて自分なりの工夫がいるのだろうと実感しました。

=====
これまでの講義に加え今回の講義で、今自分が会社の中でやるべきことは、他者を広い心で受け入れ、受け入れられる組織風土を自部署+会社全体で創り上げていくことだと改めて感じた。また、組織を変えるには周りをどう変えるかに思考が傾きがちだが、自分が学んで成長し自身の幅を広げる、ということの重要性を今回の講義で認識させられた。更に今回の講義では、仕事だけでなく、家庭や地域・友人関係等どのようなコミュニティであっても、グローバルな心の広さを持つことが重要で、子どもたちにもそのような教育をしていきたいと思った。

=====
おばあちゃんは最大の教育機関であるという「おばあちゃん仮説」が印象的であった。自分に置き換えても、亡き祖母の言葉は、今でも自分の人生に大きな影響を与えていることに気付いた。世の中にいるおばあちゃんの力を結集して、学びの場を作ることができれば、世の中をもっと良くすることができるのではないかと思った。以前NHKの特集で、朝ご飯を食べて来ない小学生が多いことに危機感を抱き、街のおばあちゃんたちが学校で朝食を作って出す試みが紹介されており、心打たれた。おばあちゃんの優しさと知恵を生かすプラットフォームを作って、この国を元氣したいと思った。

【「どんな最新学習歴がありますか？」という質問に対する受講生の回答】

【つながりの想像力学習】誰とでも共通点はある想像以上にヒトもモノもつながっている。共通点を協力関係に発展させ、相違点を多様性として理解し、相手の立場にたった物事の見え方が出来るように想像力を磨き続けたい。

【コミットメントの偉大さ学習】松下幸之助さんとファニーさんの約束の講話から、情熱や執念の源泉となり得る存在の重要性を実感した。

=====
学習中(作成中)ですが、大隈塾前半の中から一つ自分なりに考えてみようと思ひ、丸井グループの青井社長を真似て自社の企業価値とその表現について考え策定中です。

=====
現在少年野球のコーチをしており、毎週土日、小学生に指導しています。コミュニ

ケーションの取り方、組織（チーム）の強靱化、活性化について毎週学習していません。

EQ と IQ についての記事を読みました。人生自体が勉強だという事がわかりました。笑

本物のカラオケしながら（得点が出たり、全国のランキングが出たりする）アプリが存在することを知りました。

自然環境における、火起こし/調理に必要な行程知識全般。特に直近では、着火剤・トーチバーナーに頼らず、マグネシウムのファイヤースターターor マッチでおが屑に着火し、徐々に火種を大きくして焚火をつくる方法（焚火で出来た木炭は、当日 or 翌日の調理に有効活用）。

毎日新聞を読み始めました。

子供への接し方です。長男は小学3年生ですが、少しずつ自分の世界を持つようになってきています。細かなことや、自分の世界に対して口出しをされることに反発も覚えてきており、タイミング、伝え方など手段が良くないと、内容や動機、目的がどんなに良いこともうまく伝わらないことを実感しています。

英語の学び方の見直しや壁にぶつかったら、その壁のさらに上に何が見えるか考える。高い山に登ったイメージ。

この夏、低温調理器 BONIQ Pro を買ったので、お家時間で色々 Try & Learn しております。

地域のごみ出しルールを学びました。 コロナで自宅のネット環境を見直し学びました。 AI のプログラミング入門の本を読み始めました。 大隈塾で対話力、傾聴スキルを学びました。

6 月末から英語（TOEIC）学習を始めました。「グロコミ」の講義があったからという訳ではなく、①将来のキャリアも考えると必要かなと思い立ったこと、②日々の生活にメリハリと成功体験が欲しくなった、という 2 つの理由があり、身近なところから始めてみた経緯です。どんなに遅く会社から帰っても、日付が変わるまでに必ず毎日平均 1 時間はやるように心掛け、8/14 時点で 48 日連続できていま

す。今後もコツコツやっています。

=====

(本当に些細なことで申し訳ないのですが) 他社の化粧品の知識やクリエイティブを学んでいます。

=====

現在の大学生世代にとっては、村上春樹はすでに歴史上人物として扱われることも多い、ということが最近の驚き(学び)でした。個人的に村上作品が好きということはないのですが、「ハルキスト」と呼ばれる人は、どの世代にも一定数いるイメージがあったので、とても興味深かったです。村上春樹とヘミングウェイがいたい同じような位置づけである人もいたのも、非常に面白かったです。

=====

来月ファイナンシャルプランナー3級を受ける予定。

=====

中国語の学び直し。

=====

自社ソリューションに関するシステム仕様。

=====

仕事に関することはいくつかあります。医薬部外品の申請に関することや、化粧品の処方開発に関わる事など。英語に関しては話せるようになりたいと思いながらも実行出来ていないので、今回教えて頂いた学び方を参考にしたいなと思いました。

=====

現在西アフリカ～インドにかけて大繁殖し食料危機をもたらす可能性があると言われている「サバクトビバッタ」についての学習。きっかけは会社の部署の企画ですが…。複数本を読みましたが、『バッタを倒しにアフリカへ(前野ウルド浩太郎著)』は最高に面白かったです。

=====

ウクレレ(楽器の一つでも弾ける男になりたいくてコロナ期間中に始めました) / ぬかみそ(美味しいぬかみそを作れる男になりたいくて、これまたコロナ期間中に始めました)

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.06

2020年8月31日発行（通算67号）

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

杉本健太郎 kensugi9999@gmail.com

169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

tel:050-3558-7527

mail:ookuma_school@stonesoup.tokyo